

令和４年度の各分掌等の行動計画（年度当初）

〈 〉：教科・科、《 》：分掌・学年

１ 教育活動について

項目	学校マネジメントシート に記載の取組	より具体的な取組や活動指標等	振り返り（来年度に向けて）
基礎学力の定着（学習指導の充実）	○授業規律を徹底・確保を推進し、学習態度の形成を図る。 〔※定期的進捗管理〕	〈国語〉１年次の授業はティーム・ティーチング（ＴＴ）で行い、生徒の状況と課題を担当者同士で確認しながら進める。 〈地理歴史・公民〉授業時間等の生徒への目配りに留意するとともに、授業中の生徒との対話により、積極的な発言を促し、学業に向かう姿勢を育てる。 〈数学〉「ベーシック数学」「数学Ⅰ」（午前・午後の部）「数学Ａ」（午前の部）はＴＴで行い、担当者間で生徒の課題を共有し、支援する。 〈保健体育〉授業はＴＴで行い、生徒の満足のいく活動を行う。 〈英語〉１年次（午前・午後の部）の授業はＴＴで行い、生徒の課題を共有し、指導に生かす。 〈家庭〉実習を伴う授業はＴＴで行う。 授業ごとの生徒の様子を授業記録用紙に記入し、職員で共有し、生徒の指導に生かす。 〈情報〉１年次（午前・午後の部）の授業はＴＴで行い、生徒の状況と課題を共有し、指導に生かす。 《生徒指導》授業担当者・ホームルーム（ＨＲ）担任をはじめ、職員が互いに連絡を取り合い、正しい生活習慣を定着させるとともに、授業規律を守るよう指導する。 校内巡視を随時行い、遅刻や怠け学を無くす。	

		《特別支援教育・通級》通級による指導（通級）やソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）等により、挨拶や時間管理等の生活習慣の定着を図るとともに、人とかかわる力を身に付けさせる。	
	○「わかりやすい」授業の構築（授業改善）、また、オンライン授業等のＩＣＴの活用を推進し、学習意欲の向上を図る。 〔◎最重点〕	〈国語〉漢字学習を取り入れ、生活に必要な漢字の読み書きや言葉の意味を身に付けさせる。 〈地理歴史・公民〉電子黒板やプロジェクター、PowerPoint、写真や図等を活用し、視覚面でも理解を促す、わかりやすい授業を実践する。 〈理科〉電子黒板やプロジェクター、PowerPoint等のアニメーションを用いた図、YouTube動画、マンガや実物の教材等を活用し、多角的なアプローチを行う。 〈英語〉定期テストやレッスンごとにファイルをチェックし、着実にプリントを完成できるように支援する。 〈商業〉教科書の内容や問題をPowerPointで作成し、視覚的にわかりやすくするとともに、それぞれのペースで段階的に学ぶことのできる独自教材を開発する。 毎時間、実習日誌に授業の目標・振り返りを記入させ、担当者からコメントを返すことにより、自己学習調整ができるようにする。 〈情報〉映像送信設備や実物投影機等を活用し、視覚的にわかりやすい授業を行う。 《図書》読書週間を年２回設定するとともに、かわらばんの配付（紙とClassroomの併用）を年10回以上行い、学習意欲の向上に繋げる。	
個に応じた生徒支援	○通級による指導をはじめとする特別支援教育を推進し、コミュニケ	〈理科〉新入生受講の「科学と人間生活」は安全性の向上、学習に遅れのある生徒への細やかな支援のため、「理科実験」は安全性の向上のため	

ーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る。

[◎最重点]

め、それぞれT Tで行う。

グループ活動により、生徒のコミュニケーション力の向上を目指す。

〈英語〉習熟度の異なる生徒が同じ授業に参加できるよう、遅い生徒には、T T教員が指導したり、後で取り組む時間を設けたり、早い生徒には、追加のプリントを準備したりするなど、配慮する。

《生徒指導》職員から生徒一人ひとりへの積極的な声かけを大切にし、生徒が自分の意思を伝えやすい雰囲気を作り、生活の基本である挨拶を身に付けさせることで、コミュニケーション能力の向上に繋げる。

《特別支援教育・通級》「コミュニティデザインA・B」「未来デザイン」について、生徒・保護者アンケートを実施し、2/3以上から「満足」の評価を得る。

授業の最後に毎時間、個別面談を行い、生徒の進捗状況を職員で共有し、生徒の課題に合った授業内容を考える。

全生徒対象のHR単位のS S Tを「総合的な探究の時間」に年2回実施し、生徒のコミュニケーション能力の向上を目指す。

《20学年》日常的に生徒への目配りや声かけを心がけ、生徒の変化を早期に発見し、適切に対応するよう努める。

《22学年》生徒会行事を、生徒間の絆を深める機会とする。

《管理職》午前・午後の部教頭は、HR担任や担当者と協働しながら、スクールカウンセラー(S C)やスクールソーシャルワーカー(S S W)、外部専門機関等と連携しながら、より具体的な支援方法等を探るなど、適切に支援する。

○生徒指導、命を大切に する教育やいじめを許 さない教育、人権教育、 生徒会行事等を推進 し、生命尊重の精神や 自己肯定感の育成、人 間関係の構築（仲間づ くり）を図る。 〔※定期的進捗管理〕	《国語》各種教育について、小説や随想、評論等 の内容にかかわりある度に取り上げ、生徒一人 ひとりにしっかり考える機会を持たせる。 《情報》情報モラルについて、年3回以上指導し、 自他を大切にする教育を行う。 《人権教育》人権サークル「THR21」の活動を 月1回程度行う。 人権を考える集い、人と人とのきずなをつく る集い、人権LHRを実施し、人権について考 える機会を設けるとともに、2つの集いについ ては、THR21の生徒が司会を行い、全校生徒 の理解度・満足度がともに80%以上となるよう にする。 《生徒指導》命の大切さやいじめを許さないこと について、集会等で話す機会を持ち、授業担当 者やHR担任をはじめ、職員が互いに連絡し合 い、いじめ事案の早期発見・対応に努める。 《19学年》生徒会行事について、主体的に取り組 むことができるよう導き、生徒間の絆をより深 める機会とする。 《20学年》学校行事で活躍できる場を設け、自己 肯定感を高める機会を多く持つとともに、日頃 からの生徒への目配りや声かけを心がける。 《21学年》生徒会行事を、生徒間の絆を深める機 会とする。 《管理職》校長は、人権教育、主権者教育や道徳 教育の推進について、自身の経験を生かし、取 組内容の精選や向上を図るなど、適切に支援す る。
○教育相談や保健指導、 図書館教育等を推進 し、心身の豊かな成長 を図る。	《保健》教員や保護者、SCやSSW等と連携し、 生徒や来室者に対応し、その後の行動の変容に 繋げるとともに、必要な場合、情報共有会議を 開催する。

		定期健康診断結果をもとに、必要な場合、受診勧奨を行う。 生徒の実態や興味に合った内容の保健だよりを月1回発行する。 《特別支援教育・通級》教育相談の内容を職員で情報共有し、生徒の心身の成長に繋げる。 《図書》読書週間を年2回設定するとともに、かわらばんの配付（紙とClassroomの併用）を年10回以上行い、図書館教育の充実を図る。 生徒の関心を引き出すテーマに沿った資料展示を行うとともに、オリエンテーション等を利用し、図書館や資料・情報等の活用方法を紹介する。	
キャリア教育の充実	○進路指導を中心とする教育活動全体によるキャリア教育を推進し、自らの進路や生き方を主体的に考える力の育成を図る。	《英語》自分たちの夢や目標に向かって学ぶ高校生を題材にしたレッスンで、各自の将来の夢についての英文を作成・発表する活動に取り組ませる。 《進路指導》5月に進路説明会、6月に進路ガイダンス、1月に進路講話を実施するとともに、各学期に進路だよりを発行する。 年間を通し、アルバイト情報を提供する。 《生徒指導》就労に向け、自動車免許の取得を促し、交通安全指導も行う。 《特別支援教育・通級》キャリア学習支援員や就職実現コーディネーターと連携しながら、1・2年次からの仕事への興味・関心の高まり、職業適性への理解の促進を支援する。 《図書》アルバイト等の求人情報を進路指導部へ週1回提供する。 《19学年》進路情報の精選を図るなど、生徒に適した進路実現に向け、支援・指導する。 《20学年》卒業予定生徒には、保護者や各分掌と連携し、進路目標を実現するよう支援・指導す	

		る。次年度以降の卒業予定生徒にも、自分の将来を決定する重要な問題としての取組を促す。 《21学年》保護者や各分掌と連携し、生徒が進路目標を持てるよう支援、指導する。 《22学年》保護者や各分掌と連携し、生徒が進路目標を持てるよう支援・指導する。	
	○早期からの就労・就職支援、また、ものづくり工学科の専門性を生かした職業教育を推進し、生徒一人ひとりの適性に応じた進路実現を図る。 〔※定期的進捗管理〕	〈理科〉産業と結び付く教材を取り扱う際、実物の提示や生成を行い、産業に対する理解を深める。 〈ものづくり〉点呼や挨拶の励行、欠席・遅刻防止への声かけ、安全に実習を行うための意識付けと安全作業の確認、作業終了時の片付けや協力して行う清掃の励行等、実習を通じた指導に努め、働く心構え等を身に付けられるようする。 《特別支援教育・通級》HR担任、進路指導部と協力しながら、キャリア学習支援員や就職実現コーディネーター、ハローワーク等と連携しながら、生徒に合った実習先を見つけ、体験させる。 就労SSTや通級での職業講話等により、早期からの就労に向けた意識付けを行う。 就労支援対象生徒には、障がい者就労合同面接会への参加を促し、ハローワーク等と連携しながら、本人の意向に沿った就労支援を進める。	

2 学校運営等について

項目	学校マネジメントシートに記載の取組	より具体的な取組や活動指標等	振り返り（来年度に向けて）
資質向上の取組	○授業改善（「わかりやすい」授業の構築）、また、オンライン授業	〈国語〉TTの際、交互に主担当を務め、互いの指導技術等を学び、資質を高め合う機会とする。 〈英語〉TTによる授業を通し、互いの指導技術	

	等のICTの活用に係る自己研鑽に努め、基礎学力の定着を図る。 〔※定期的進捗管理〕 〔◎最重点〕	等を学び合う。 《教務》ICT機器の利用簿を準備し、資料提供を行うなど、ICT機器の活用を促進するために働きかける。 職員が無理の無い形でオンライン授業等に取り組めるよう準備する。 《特別支援教育・通級》「コミュニティデザインA・B」「未来デザイン」の取組内容について、全職員の共通理解を得る。 《管理職》授業改善、ICTの活用や授業のユニバーサルデザイン化について、環境等整備、随時の情報提供や授業等観察を行い、支援の充実に努める。	
	○通級による指導をはじめとする特別支援教育、また、その他の教育等に係る自己研鑽に努め、個に応じた生徒支援を図る。 〔※定期的進捗管理〕 〔◎最重点〕	《教務》通級やコミュニケーション能力を高める授業に、複数教員を配置する。 面談週間や教育相談週間を設け、生徒が教員と密に面談する時間を確保する。 《特別支援教育・通級》通級では、生徒や保護者との面談を学期1回実施し、生徒や保護者と合意された個別の目標に沿って支援する。 《人権教育》現職教育を行い、研修機会を設けるとともに、各学年で作成した人権LHRの指導案について全教員で検討する。	
信頼される学校・教職員であるための行動	○教職員一人ひとりが不祥事を自分事としてとらえ、その根絶に率先して取り組み、公教育への信頼の回復・向上を図る。 〔※定期的進捗管理〕 〔◎最重点〕	《理科》定期的な教科会で情報共有を行い、連携し、適切な生徒対応を行う。 《特別支援教育・通級》問題が起こってから動くのではなく、問題を未然に防ぐことを重要視し、行動する。 保護者と日常的に連携を取り、共通理解に基づいて生徒の成長に取り組む体制を作る。 《管理職》随時の情報提供を行うとともに、日々の対話や定期面談等を活用し、不祥事の根絶に	

		向けた取組状況等を的確に把握する。	
	○教職員一人ひとりが生き生きと活躍できる （チームワークの向上と意欲の増進が可能な）職場環境を整備するとともに、保護者・地域住民・関係諸機関等と連携し、信頼される組織の構築（学校づくり）を図る。	《管理職》教頭は、入学志願者数の増加も目指し、ホームページや中学校進路説明会等を活用し、特長ある取組等の情報を効果的に提供する。	
働きやすい職場環境づくり	○業務の見直しや削減等の勤務管理を推進し、総勤務時間の縮減を図る。 〔※定期的進捗管理〕	〈数学〉生徒配付プリントをできる範囲で共有する。 《教務》時間割変更を行わないため、職員が休暇を取る際の自習監督を手配する。 《特別支援教育・通級》個別の指導計画の作成や通級の授業計画の振り返り、ボード会議の実施方法等、仕事の仕方を精選する。 《19学年》学年（HR担任団）の情報交換ができる機会を増やす。 《管理職》会議の厳選や時間短縮、定時退校等、過重労働の削減に率先して取り組む。 夜間部教頭は、勤務時間の適正管理、休暇取得の奨励等、総勤務時間の縮減に係る環境整備の充実に努める。	